

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和2年度3月

○ 概要

(1) 令和3年3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,091億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.6%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,843円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,785億円（伸び率+7.5%）薬剤料が5,293億円（伸び率+3.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,131億円（伸び率+19.0%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,737円（伸び率▲3.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.71種類（伸び率▲2.1%）、28.0日（伸び率+3.8%）、75円（伸び率▲4.5%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料4,133億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+83億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の705億円（伸び幅+48億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+59億円（総額445億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,133億円 (+83億円)	39 その他の代謝性 医薬品(705億円)	21 循環器官用薬 (697億円)	11 中枢神経系用薬 (644億円)
0歳以上 5歳未満	22.1億円 (▲2.1億円)	44 アレルギー用薬 (9.8億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0億円)	61 抗生物質製剤 (2.9億円)
5歳以上 15歳未満	101.0億円 (+10.0億円)	44 アレルギー用薬 (49.4億円)	11 中枢神経系用薬 (24.4億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.3億円)
15歳以上 65歳未満	1,511億円 (+63億円)	11 中枢神経系用薬 (305億円)	39 その他の代謝性 医薬品(268億円)	21 循環器官用薬 (213億円)
65歳以上 75歳未満	980億円 (+31億円)	39 その他の代謝性 医薬品(205億円)	21 循環器官用薬 (194億円)	42 腫瘍用薬 (143億円)
75歳以上	1,519億円 (▲19億円)	21 循環器官用薬 (286億円)	39 その他の代謝性 医薬品(226億円)	11 中枢神経系用薬 (210億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,843円（伸び率▲0.5%）で、最も高かったのは高知県（12,068円（伸び率+1.4%））、最も低かったのは佐賀県（8,107円（伸び率▲0.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは富山県（伸び率+3.6%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲2.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.1 %	+1.7 %
薬剤料ベース	21.4 %	+2.7 %
後発品調剤率	77.6 %	+1.9 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.1 %	+3.7 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.0 %	+36.1 % (10歳以上 15歳未満)	+10.0 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.4 %	30.7 % (100歳以上)	14.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.1 %	86.9 % (100歳以上)	75.8 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	973 億円 (+153 億円)	21 循環器官用薬 (274 億円)	11 中枢神経系用薬 (155 億円)	44 アレルギー用薬 (124 億円)
0歳以上 5歳未満	8.0 億円 (+0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (4.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	26.4 億円 (+5.7 億円)	44 アレルギー用薬 (19.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	338 億円 (+45 億円)	21 循環器官用薬 (79 億円)	44 アレルギー用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)
65歳以上 75歳未満	228 億円 (+36 億円)	21 循環器官用薬 (84 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	11 中枢神経系用薬 (25 億円)
75歳以上	373 億円 (+66 億円)	21 循環器官用薬 (111 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,570 円	2,035 円(北海道)	1,292 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+13.2%	+19.4 % (徳島県)	+10.9 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.1 %	89.5 % (沖縄県)	78.4 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.4 %	24.9 % (鹿児島県)	18.5 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.6 %	83.5 % (沖縄県)	72.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.1 %	66.6 % (沖縄県)	54.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。